

第5回 今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会

平成20年6月25日

資料1

精神病床の利用状況に関する調査 (速報)

調査の概要①

平成19年度厚生労働科学研究こころの健康科学事業

「精神医療の質的実態把握と最適化に関する総合研究」

主任研究者 伊豫雅臣(千葉大学大学院)

分担研究者 松原三郎(松原病院)

調査の概要②

調査対象 精神科病院 1,542 施設

(国立病院機構、自治体病院、大学付属病院、
公的病院、民間病院 等)

→入院患者を1割抽出し、2月15日時点の状況と1カ
月後(3月15日)の状況を調査

調査の概要③

企画委員会

伊藤 弘人	国立精神・神経センター精神保健研究所 社会精神保健部 部長
伊豫 雅臣	千葉大学大学院医学研究院 精神医学 教授
江原 良貴	積善病院 理事長
萱間 真美	聖路加看護大学 精神看護学 教授
川田 和人	松原病院 看護師長
富永 格	国立病院機構下総精神医療センター 院長
長尾 卓夫	高岡病院 理事長
花井 忠雄	ときわ病院 理事長
平田 豊明	静岡県こころの医療センター 院長
松原 三郎	松原病院 理事長
山内 慶太	慶應義塾大学看護医療学部大学院 健康マネジメント研究科 教授
山角 駿	花園病院 理事長
吉本 博昭	富山市民病院 精神科 部長

調査の概要④

	自治体病院	大学附属 病院	国立病院 機構	公的病院	民間病院 (日精協)	計
対象施設数	164	77	35	48	1,218	1,542
提出施設数	77	32	16	13	858	996
うち、対象者なし	3	2	0	1	0	6
提出率	47.0%	41.6%	45.7%	27.1%	70.4%	64.6%

患者票1 回答数	施設数	74	30	16	12	858	990
	患者数	823	115	237	52	16,592	17,819

回答患者数(票1) の2/15在院患 者数(施設票) に対する割合	9.7%	9.7%	8.4%	7.1%	8.7%	8.7%
--------------------------------------------	------	------	------	------	------	------

概況

入院形態

	全体		F0		F20	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
措置入院	119	0.7	2	0.1	83	0.8
医療保護入院	7,109	40.1	1,933	55.7	3,956	38.9
任意入院	10,471	59.0	1,529	44.0	6,124	60.2
応急入院	11	0.1	2	0.1	8	0.1
自由入院	2	0.0	1	0.0	0	0.0
その他	32	0.2	5	0.1	7	0.1
計	17,744	100.0	3,472	100.0	10,178	100.0

(参考)精神・障害保健福祉課調(平成17年 6月30日)では、

措置0.7%、医療保護入院36.4%、任意入院62.4%、その他0.5%

F0 :主に認知症性疾患 F20 :統合失調症

主診断

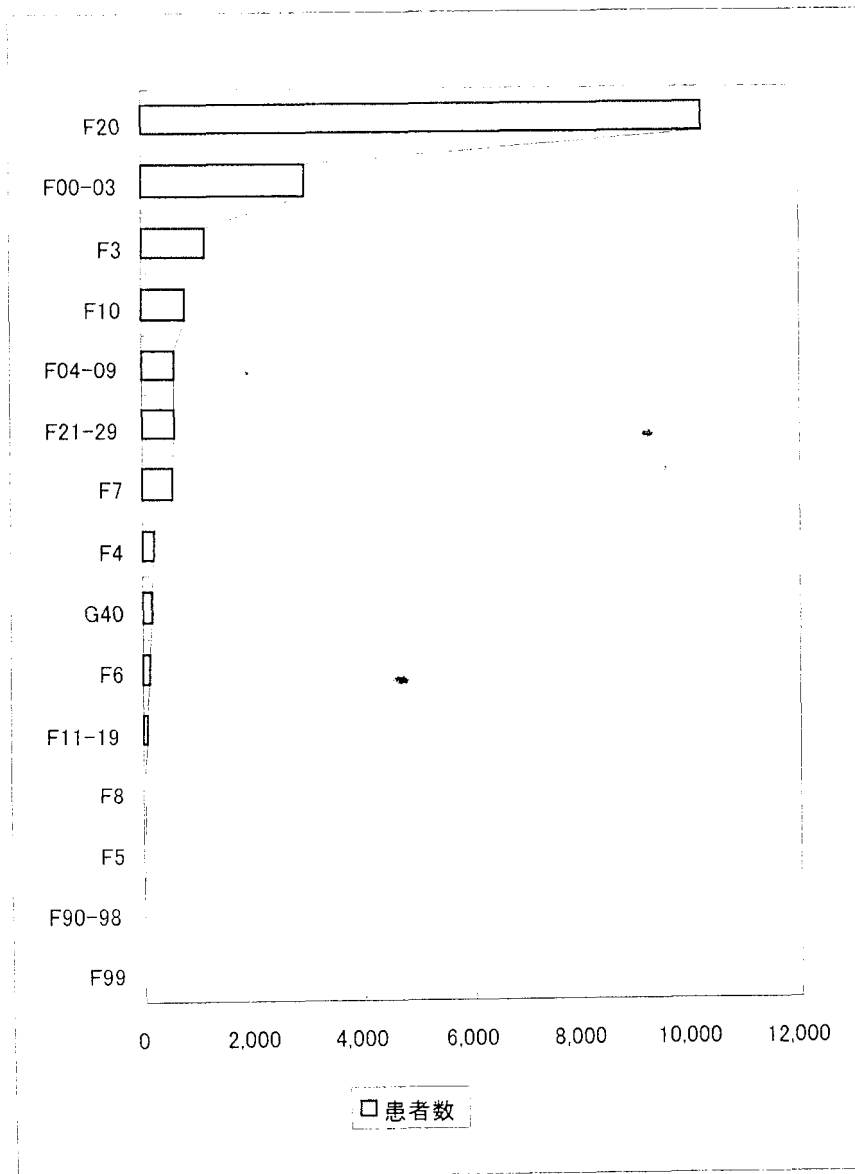
	患者数	割合
F00-03	2,935	16.9
F04-09	551	3.2
F10	748	4.3
F11-19	93	0.5
F20	10,222	58.8
F21-29	551	3.2
F3	4,118	6.4
F4	222	1.3
F5	40	0.2
F6	127	0.7
F7	539	3.1
F8	43	0.2
F90-98	13	0.1
F99	7	0.0
G40	180	1.0
計	17,389	100.0

F00-03	認知症疾患
F04-09	その他の症状性を含む器質性精神障害
F10	アルコールによる精神・行動の障害
F11-19	その他の精神作用物質による精神・行動の障害
F20	統合失調症
F21-29	その他の精神病性障害
F3	気分(感情)障害
F4	神経症性・ストレス関連・身体表現性障害
F5	生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群
F6	成人の人格・行動の障害
F7	精神遅滞
F8	心理的発達障害
F90-98	小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害
F99	特定不能の精神障害
G40	てんかん

(参考)H17患者調査では、アルツハイマー等の認知症は約16%、

統合失調症その他の精神病性障害は約61%

主診断



F00-03	認知症疾患
F04-09	その他の症状性を含む器質性精神障害
F10	アルコールによる精神・行動の障害
F11-19	その他の精神作用物質による精神・行動の障害
F20	統合失調症
F21-29	その他の精神病性障害
F3	気分(感情)障害
F4	神経症性・ストレス関連・身体表現性障害
F5	生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群
F6	成人の人格・行動の障害
F7	精神遅滞
F8	心理的発達の障害
F90-98	小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害
F99	特定不能の精神障害
G40	てんかん

年齢

	全体		F0		F20	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
10歳未満	2	0.0	1	0.0	1	0.0
20歳未満	110	0.6	1	0.0	51	0.5
30歳未満	543	3.1	14	0.4	320	3.1
40歳未満	1,238	7.0	48	1.4	825	8.1
50歳未満	1,835	10.3	93	2.7	1,243	12.2
60歳未満	4,177	23.5	316	9.1	2,923	28.7
65歳未満	2,315	13.0	258	7.4	1,507	14.8
70歳未満	2,242	12.6	313	9.0	1,425	14.0
75歳未満	1,883	10.6	439	12.6	1,000	9.8
75歳以上	3,440	19.3	1,997	57.4	904	8.9
計	17,785	100.0	3,480	100.0	10,199	100.0

入院期間

	全体		F0		F20	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
1ヶ月未満	710	4.0	126	3.6	236	2.3
3ヶ月未満	1,962	11.0	452	13.0	710	7.0
6ヶ月未満	1,318	7.4	376	10.8	550	5.4
1年未満	1,548	8.7	479	13.8	687	6.7
1年6ヶ月未満	1,009	5.7	320	9.2	476	4.7
3年未満	2,153	12.1	561	16.2	1,131	11.1
5年未満	1,822	10.2	418	12.0	1,061	10.4
10年未満	2,576	14.5	428	12.3	1,662	16.3
20年未満	2,289	12.9	192	5.5	1,750	17.2
20年以上	2,389	13.4	121	3.5	1,935	19.0
計	17,776	100.0	3,473	100.0	10,198	100.0

GAF

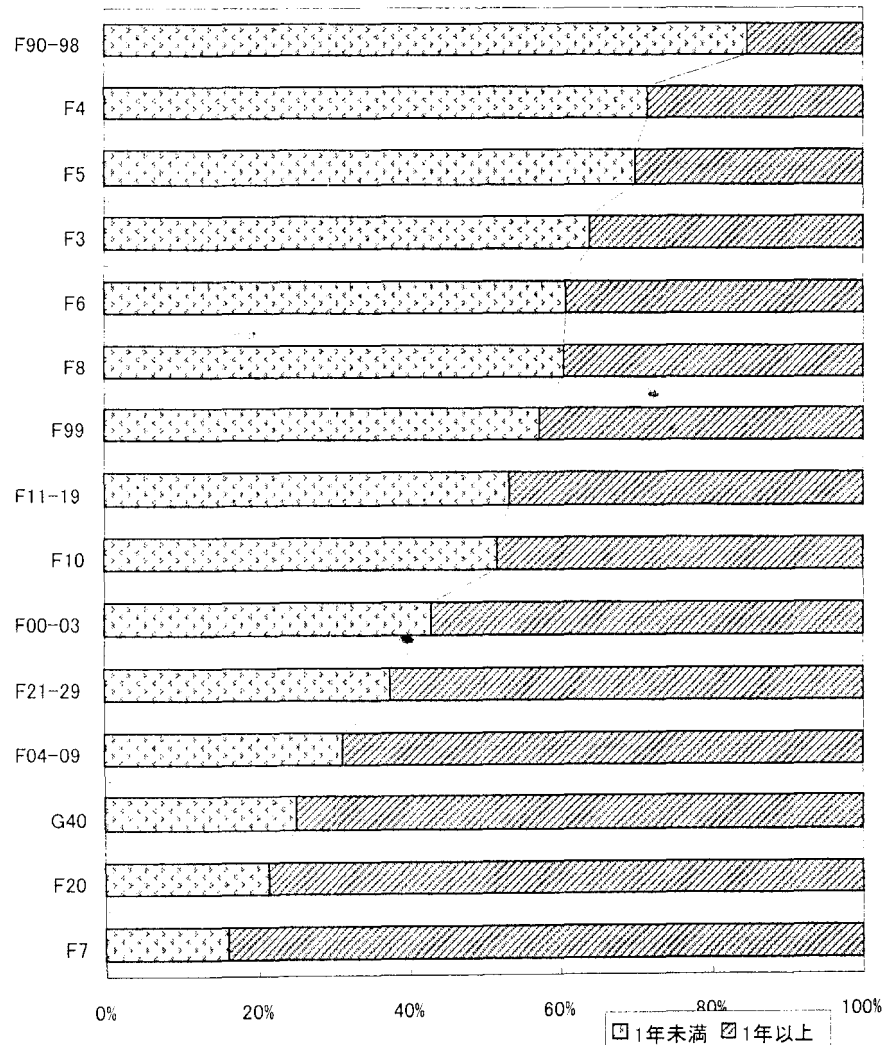
	全体		F0		F20	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
100～91	26	0.1	7	0.2	6	0.1
90～81	167	0.9	13	0.4	75	0.7
80～71	419	2.4	39	1.1	176	1.7
70～61	1,335	7.6	145	4.2	602	5.9
60～51	2,800	15.9	320	9.2	1,659	16.3
50～41	1,805	10.2	197	5.7	1,081	10.6
40～31	3,721	21.1	628	18.1	2,367	23.2
30～21	4,763	27.0	987	28.5	3,191	31.3
20～11	1,525	8.6	531	15.3	747	7.3
10～1	892	5.1	505	14.6	231	2.3
0	199	1.1	96	2.8	49	0.5
計	17,652	100.0	3,468	100.0	10,184	100.0

GAF尺度

点	機能の状態
100～91	広範囲の行動にわたって最高に機能しており、生活上の問題で手に負えないものは何もなく、その人の多数の長所があるために他の人々から求められている。症状は何もない。
90～81	症状がまったくないか、ほんの少しだけ(例:試験前の軽い不安)、すべての面でよい機能で、広範囲の活動に興味をもち参加し、社交的にはそつがなく、生活に大体満足し、日々のありふれた問題や心配以上のものはない(例:たまに、家族と口論する)。
80～71	症状があったとしても、心理的社会的ストレスに対する一過性で予期される反応である(例:家族と口論した後の集中困難)、社会的、職業的または学校の機能にごくわずかな障害以上のものはない(例:学業で一時遅れをとる)。
70～61	いくつかの軽い症状がある(例:抑うつ気分と軽い不眠)、または、社会的、職業的または学校の機能に、いくつかの困難はある(例:時にずる休みをしたり、家の金を盗んだりする)が、全般的には、機能はかなり良好であって、有意義な対人関係もかなりある。
60～51	中等度の症状(例:感情が平板的で、会話がまわりくどい、時に、恐慌発作がある)、または、社会的、職業的、または学校の機能における中等度の障害(例:友達が少ない、仲間や仕事の同僚との葛藤)。
50～41	重大な症状(例:自殺の考え、強迫的儀式がひどい、しょっちゅう万引する)、または、社会的、職業的または学校の機能において何か重大な障害(友達がいない、仕事が続かない)。
40～31	現実検討か意思伝達にいくつかの欠陥(例:会話は時々、非論理的、あいまい、または関係性がなくなる)、または、仕事や学校、家族関係、判断、思考または気分、など多くの面で粗大な欠陥(例:抑うつ的な男が友人を避け家族を無視し、仕事ができない。子どもが年下の子どもを殴り、家で反抗的で、学校では勉強ができない)。
30～21	行動は妄想や幻覚に相当影響されている。または意思伝達か判断に粗大な欠陥がある(例:時々、滅裂、ひどく不適切にふるまう、自殺の考えにとらわれている)、または、ほとんどすべての面で機能することができない(例:一日中床についている、仕事も家庭も友達もない)。
20～11	自己または他者を傷つける危険がかなりあるか(例:死をはっきり予期することなしに自殺企図、しばしば暴力的、躁病性興奮)、または、時には最低限の身の清潔維持ができない(例:大便を塗りたくる)、または、意思伝達に粗大な欠陥(例:ひどい滅裂か無言症)。
10～1	自己または他者をひどく傷つける危険が続いている(例:何度も暴力を振るう)、または最低限の身の清潔維持が持続的に不可能、または、死をはっきり予測した重大な自殺行為。
0	情報不十分

入院期間(1年未満、1年以上)

主診断 × 入院期間



- F00-03 認知症疾患
- F04-09 その他の症状性を含む器質性精神障害
- F10 アルコールによる精神・行動の障害
- F11-19 その他の精神作用物質による精神・行動の障害
- F20 統合失調症
- F21-29 その他の精神病性障害
- F3 気分(感情)障害
- F4 神経症性・ストレス関連・身体表現性障害
- F5 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群
- F6 成人の人格・行動の障害
- F7 精神遅滞
- F8 心理的発達の障害
- F90-98 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害
- F99 特定不能の精神障害
- G40 てんかん

年齢×入院期間

◆患者数

	全疾病			F0 症状性を含む器質性精神障害のみ			F20 統合失調症のみ		
	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上
10歳未満	2	0	2	1	0	1	1	0	1
20歳未満	110	103	7	1	1	0	51	47	4
30歳未満	541	388	153	14	10	4	318	206	112
40歳未満	1,239	649	590	48	23	25	826	377	449
50歳未満	1,832	683	1,149	93	34	59	1,241	338	903
60歳未満	4,173	1,021	3,152	316	112	204	2,918	521	2,397
65歳未満	2,310	513	1,797	258	89	169	1,502	205	1,297
70歳未満	2,239	467	1,772	312	90	222	1,424	207	1,217
75歳未満	1,876	484	1,392	436	190	246	997	140	857
75歳以上	3,431	1,221	2,210	1,992	883	1,109	902	137	765
計	17,753	5,529	12,224	3,471	1,432	2,039	10,180	2,178	8,002

◆割合

	全疾病			F0 症状性を含む器質性精神障害のみ			F20 統合失調症のみ		
	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上
10歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳未満	1	2	0	0	0	0	1	2	0
30歳未満	3	7	1	0	1	0	3	9	1
40歳未満	7	12	5	1	2	1	8	17	6
50歳未満	10	12	9	3	2	3	12	16	11
60歳未満	24	18	26	9	8	10	29	24	30
65歳未満	13	9	15	7	6	8	15	9	16
70歳未満	13	8	14	9	6	11	14	10	15
75歳未満	11	9	11	13	13	12	10	6	11
75歳以上	19	22	18	57	62	54	9	6	10
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

◆割合

	全疾病			F0 症状性を含む器質性精神障害のみ			F20 統合失調症のみ		
	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上
10歳未満	100	0	100	100	0	100	100	0	100
20歳未満	100	94	6	100	100	0	100	92	8
30歳未満	100	72	28	100	71	29	100	65	35
40歳未満	100	52	48	100	48	52	100	46	54
50歳未満	100	37	63	100	37	63	100	27	73
60歳未満	100	24	76	100	35	65	100	18	82
65歳未満	100	22	78	100	34	66	100	14	86
70歳未満	100	21	79	100	29	71	100	15	85
75歳未満	100	26	74	100	44	56	100	14	86
75歳以上	100	36	64	100	44	56	100	15	85
計	100	31	69	100	41	59	100	21	79

GAF × 入院期間

◆患者数

	全疾病			F0 症状性を含む器質性精神障害のみ			F20 統合失調症のみ		
	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上
100～91	26	16	10	7	4	3	6	2	4
90～81	166	64	102	13	6	7	74	10	64
80～71	419	231	188	39	23	16	176	71	105
70～61	1,332	629	703	143	70	73	601	201	400
60～51	2,796	1,056	1,740	319	151	168	1,657	437	1,220
50～41	1,799	699	1,100	196	81	115	1,077	302	775
40～31	3,714	995	2,719	627	261	366	2,363	474	1,889
30～21	4,749	1,082	3,667	982	394	588	3,183	523	2,660
20～11	1,521	398	1,123	530	225	305	744	108	636
10～1	890	253	637	503	179	324	231	39	192
0	198	66	132	96	31	65	49	14	35
計	17,610	5,489	12,121	3,455	1,425	2,030	10,161	2,181	7,980

◆割合

	全疾病			F0 症状性を含む器質性精神障害のみ			F20 統合失調症のみ		
	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上
100～91	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90～81	1	1	1	0	0	0	1	0	1
80～71	2	4	2	1	2	1	2	3	1
70～61	8	11	6	4	5	4	6	9	5
60～51	16	19	14	9	11	8	16	20	15
50～41	10	13	9	6	6	6	11	14	10
40～31	21	18	22	18	18	18	23	22	24
30～21	27	20	30	28	28	29	31	24	33
20～11	9	7	9	15	16	15	7	5	8
10～1	5	5	5	15	13	16	2	2	2
0	1	1	1	3	2	3	0	1	0
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

◆割合

	全疾病			F0 症状性を含む器質性精神障害のみ			F20 統合失調症のみ		
	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上	計	1年未満	1年以上
100～91	100	62	38	100	57	43	100	33	67
90～81	100	39	61	100	46	54	100	14	86
80～71	100	55	45	100	59	41	100	40	60
70～61	100	47	53	100	49	51	100	33	67
60～51	100	38	62	100	47	53	100	26	74
50～41	100	39	61	100	41	59	100	28	72
40～31	100	27	73	100	42	58	100	20	80
30～21	100	23	77	100	40	60	100	16	84
20～11	100	26	74	100	42	58	100	15	85
10～1	100	28	72	100	36	64	100	17	83
0	100	33	67	100	32	68	100	29	71
計	100	31	69	100	41	59	100	21	79

入院の状況（患者調査と同じ設問）

生命の危険は少ないが入院治療を要する

生命の危険がある

受け入れ条件が整えば退院可能

検査入院

その他

いわゆる「受入条件が整えば退院可能」な患者について